

Ⅱ 教育目標

1. 校訓 「自立 協働 創造」

2. 経営理念

生徒・教職員・保護者・地域が連携し、校訓「自立 協働 創造」に基づいた教育目標、及びめざす生徒像の実現に向け、「主体的に考え、仲間と共に受け入れ、理解し合いながら、未来を創造していく力」を伸ばす教育活動を行う。そのために、ウェル・ビーイングの実現（本当の幸せの獲得）を目指して、生徒も教職員も次の3点に重点を置いて取り組んでいく。

- (1) **主体的に**生き方を決定する力の育成・・・ 絶えず考え、修正しながら自分で決める
- (2) **協働的に**課題解決できる集団の育成・・・ 他者を受け入れる寛容の心を持ち、相互理解を図る
- (3) **創造的に**学び続ける人材の育成・・・ 失敗を恐れず、好奇心を持ち続け、感性を磨く

3. 教育目標 「主体的に学び、心豊かで創造性に満ちた生徒の育成」

4. 教育方針

- (1) **主体的に**課題に対応できる力の育成 **【自立】**
 - ・課題や変化を前向きに捉え、広く知りながら考えて、判断する。
 - ・冷静に状況を把握し、時には厳しい現実にも耐えながら、自分の言動を決める力を育成する。
- (2) **協働的に**課題解決できる集団の育成 **【協働】**
 - ・挨拶や感謝の言葉でコミュニケーションの扉を開く。
 - ・相手の考え、想いを聴き、自分の考え、想いを伝えながら対話を続け、相互理解を深めていく。
 - ・あたたかさをベースにして、認め合えるつながりを築く。
- (3) **創造的に**学び続ける人材の育成 **【創造】**
 - ・失敗を恐れずに未来を切り拓く創造の気概を持ち、好奇心を持って感性を磨き、粘り強く学び続ける力を育成する。
 - ・将来も地元地域に住み続け、よりよい暮らしの創造を志す生徒、または、将来笠間地区や白山市を離れても、帰ることのできる場所として、故郷を大切に思う生徒の心情を育む。

5. めざす生徒像

- (1) 広く知り、自分で考え抜くことができる生徒
- (2) 対話を通して相互理解を深め、互いに認め合うことができる生徒
- (3) 失敗を恐れずに挑戦し、感性を磨きながら学び続けることができる生徒

6. めざす教師像

- (1) 教職に対する使命感、生徒に対する愛情と責任感をもつ教師
- (2) 自ら学び続ける教師
- (3) 同僚との意思疎通を図り、相互理解を深める教師
- (4) 生徒、保護者、地域から信頼される教師

7. めざす学校像

- (1) 生徒にとって、互いを認め合うことができる学校
- (2) 保護者にとって、子供の成長が感じられる学校
- (3) 教職員にとって、働きがいのある学校
- (4) 保護者、地域から信頼される学校

8. 学校の現状

- (1) 素直な生徒が多く、全体的に落ち着いているが、課題を自分ごととして捉え、主体的に学びに向かう力、自分で考える力が弱い。
- (2) 学習面や生活面に支援を必要とする生徒が見られ、不登校(傾向)生徒に対する支援が課題である。
- (3) 若手教員が育ってきており、中堅やベテランとの連携した教育活動が進められ、職場に活気を感ずる。若プロ研修をより活性化させ、全教職員の資質能力の向上に努める。

9. 重点目標

(1) 豊かな心と健やかな体の育成

＊教育活動全般を通して育てる ～ 存在・行動を認める ～

授業、学級活動、生徒会活動、学校行事、読書活動、ボランティア活動、部活動などを通して、日々のわずかな成長を捉え、それを認め、価値付けを行う。

- ① 個に応じた指導・・・特別支援教育の視点を大切にし、教師の対応力向上を図る。
- ② 不登校(傾向)、いじめへの対応・・・教育相談と組織での対応のさらなる充実を図る。
- ③ ジオ育・・・地域への愛着を深めるため、体験活動を重視した活動を展開する。
- ④ 食育・・・食の持つ文化、人と自然とのつながりを学ぶ中で感謝の気持ちを育みながら自分に必要な栄養分の摂取について正しく学び、残食を減らしていく。

(2) 確かな学力の定着

- ① 魅力ある授業・・・組織的に学校研究を推進する。(研究推進委員会・教科部会・GIGA 推進) デジタルとアナログのベストミックスを模索していく。
- ② 学力向上・・・「書く」ことで学びを確かなものにする。
- ③ 読育(よみいく)・・・「読む」こと、学校図書館教育を通してより深く「考える」習慣をつける。
- ④ キャリア教育・・・他者との関わり、社会の中で協働しながら自己実現を果たすために、学びを積み上げる。

(3) 家庭・地域との連携

- ① 保護者との連携：連絡は丁寧に、遅くならないようにして、課題解決のために、協力し合う信頼関係を築き、生徒の成長を見守っていく。
- ② 地域との連携：人材活用、同窓会やPTA、小学校などとの連携など、開かれた学校づくりを推進し、総合的な学習、特別活動、各種ボランティア活動などで、人々との関わりを通して地元笠間地区、白山市を大切に思う気持ちを育む。

(4) 組織的な学校運営

- ① カリキュラム・マネジメントの柱を共有し、職員一人一人が学校運営に参画意識を持つことで、職員間の連携強化、組織の機能化を図る。
- ② 各々の教育活動の目的を明確にし、共有することで、組織の効率的な運営と、自身の業務にやりがいや誇りを感じられるようにする。
- ③ 業務改善を図る。
 - ・ 心の健康(対話により互いの考え方を知り、尊重し合う)
 - ・ 業務改善と平準化(アイディアの持ち寄り、管理職との対話)
 - ・ 私生活の充実(学校以外の場所で人生の楽しみを持つ)